

令和元年度

第 24 回武蔵野市地域公共交通活性化協議会

(1) 開催概要 (文中：敬称略)

■日 時：令和元年 5 月 8 日 (水) 15:00~16:30：武蔵野市役所 西棟 8階 812 会議室

■出席者：[武蔵野市地域公共交通活性化協議会委員]16 名
[事務局] 武蔵野市交通対策課

■配布資料：第 24 回武蔵野市地域公共交通活性化協議会 次第

- 資料 1 調査の内容・実施方法 (案) について
- 資料 2 地域公共交通に関する市民アンケート調査
- 資料 3 ムーバスの利用と運行についてのアンケート調査
- 資料 4 路線バス利用者アンケート調査 ご協力をお願い
- 資料 5 武蔵野市地域公共交通活性化協議会規約
- 資料 6 武蔵野市地域公共交通活性化協議会規約 新旧対照表

(2) 会議の概要

1. 開 会 (事務局)

- 1. 会長あいさつ
- 2. 新委員紹介
- 3. 配布資料確認

2. 議事

(1) 検討事項

武蔵野市地域公共交通網形成計画策定スケジュール

武蔵野市地域公共交通網形成計画策定に向けた調査の内容

【資料 1、2、3、4】

- ・資料 1、2、3、4 に基づき説明

■市民アンケートに関する協議

座長：市民アンケート調査の方法、資料の内容について気づいた点があれば、おきかせいただきたい。

委員 (東京都建設局北多摩南部建設事務所管理課長)：市民アンケート「3. 日常の買い物につ

いて」は、買い物は仕事の帰りに駅のスーパーなどで行われることが多いと思うが、その場合、「問 11 普段買い物に出る時間帯、家を出る時間、帰る時間」というのは回答しにくいのではないか？

事務局：説明の内容も踏まえて検討させて頂く。

座長：初めてご覧になる方もいると思うので、本日はこの場で修正まで行うのではなく、この場で意見をもち帰り、検討して頂き、期日を決めて事務局に意見等を寄せて頂いた上で、本日挙げられた様々な意見と合わせて事務局からフィードバックを委員の皆様に行い、調査を実施していく形になる。先程の質問について、車移動が大半の地域であれば、仕事は仕事のみを目的として移動し、買い物は買い物で週末にまとめ買いを行う、または日中在宅している方は買い物に出かけるといったように通勤通学のための交通と買物のための交通がそれぞれ独立しているため、この質問内容で問題はない。もちろん武蔵野市であっても、日中在宅の方であれば独立して買い物のみで出かける方はいると思うが、共働きのご家庭だと仕事の帰宅時に買い物をする方もいるので、買物の回数から聴取し、場所、時間帯という順番ではなく、回答者が買物をどういうシーンでされることが多いのか、例えば通勤通学の行き帰りなのか、それとも買い物は買い物として独立して外出されるのかという買い物シーンを聞いた後に場所や時間帯、どういった方法で移動されているのかを聴取するほうが得策であろうと考えられる。

委員（武蔵野市コミュニティ研究連絡会）：歩くのが億劫だから自転車を利用するという方もいる。一般的には徒歩では遠いため、自転車で行くという回答が多いという事をこういった交通手段のアンケートで考えたほうが良いと思うが、「自転車じゃないと行けない、歩くのであれば行かない」という方も多いため、交通手段の聞き方についてはぜひ知恵を絞っていただきたい。もう一点、回答者の住所を聞いている質問で吉祥寺の東町と南町の「町」が抜けているので、是非訂正していただきたい。

座長：2点目の町丁目というのはとても大事なことで、事務局のほうで再度確認を行ってほしい。

1点目の「自転車でなければ行けない」ということについて、自転車がどういうシーンで使われているかは把握する必要があると思うので、聞き方に工夫が必要かもしれない。また、先ほどあった市民アンケート調査の「鉄道駅までの交通手段は何を利用するか」という質問について、晴れの日と雨の日の移動手段は確実に分けておいたほうが良い。晴れの日と雨の日で外出の行動が違うのかどうか、という事も少しフォローしてもよいのかと思うので工夫が必要である。

委員（一社 東京ハイヤー・タクシー協会）：アンケートの目的として「交通空間の再配分、再

構築」あるいは「駅前の混雑解消」が挙げられているが、属性以外は乗り物についての質問になっている。吉祥寺の南と北口はほぼ手付かずだが、境の北口は開発が終わり、三鷹の北口も終了した。各駅前のロータリーの使い勝手について、バスやタクシーの乗り場の位置について、あるいは乗り場へのアクセスについて聞いてみるだとか、境と三鷹はかなり改善されていると思うが、駅周辺のバリアフリーなどはどうかと質問するのもいいかもしれない。また、どこまで具体的に聞いていいものかわからないが、万助橋から駅に入ってくるときにバスレーンを通していいのかどうかといった道路の使い方について、市民がどういう感覚を持っているのかという事も私共の側からみると知りたい。これはタクシー業界側だけで行うアンケートでは出てこない答えだと思うので、再考の余地があればその点も考慮して頂ければありがたい。

座長：どこまで組み込むのかという事は確かに課題かと思う。今お話を伺って思ったのが、問28に色々な乗り物に対する意見が含まれているので、ここで聞いてみてはいかがか。ちなみにこちらは皆様に書いてもらうわけだが、計画でどのように使う予定か。

事務局：現況の運行実態というものは各駅からの発着便を見ればわかる中で、実際にその部分について利用者の人たちは満足しているのかが知りたい。具体的に申し上げますと、各駅とも平日1日900便くらいの運行がなされているが、その運行時間帯や車内の混雑、運行本数などに関してどのようなご意見をお持ちになっているのかという事をこの調査で聞けると思っている。維持・継続できるかできないかという議論にもつながっていけばよいと考えており、そういった分析を進めていきたい。また千田委員からあったタクシーの乗り場などについて、同じ問28のその他で駅前の乗り場のわかりやすさや、案内板のわかりやすさ、公共交通全体について問う項目が入るという事なので、バスレーンの話は入っていないが、各駅についての皆さんのご意見は伺えると思っている。乗り場の案内についても各駅すべてについているのでそのあたりの事業実態についても、この調査の中で分かってくるのではないかと思う。

座長：調査の種類が多数あるため、どの調査にどういう役割を持たせるのか明確にしたほうが良いと思う。例えば市民アンケートで、満足、不満と書かれても実際にどの路線で、どの駅に出発するものについて感じていることなのかという事がよくわからない。後ほど皆様にご確認頂く、バスに乗られる方に配るハガキ大サイズのものや、ムーバス利用者へのアンケートであれば個々の路線名がわかるが、こちらでは相対的にどこが不満でどこが満足なのかわからない。それであれば、駅の総合案内板が連携計画に基づき完成したため、総合案内板をご存じか、どう感じられているか、と今まで具体的に取り組んできた施策や、現在課題にな

っていることに対して、いくつかポイントを絞って具体的に皆さんから意見をお伺いするという事を市民アンケートで行い、個別のサービスについては路線バス、ムーバス、タクシーの調査で聞き取るという役割分担をするなど、委託事業者を含めてご相談いただいたほうが良いかと思う。

委員（武蔵野市健康福祉部長）：市民アンケートの最初の項目で「外出頻度（後期高齢者等）」という記載があり、確かに後期高齢者になると要介護リスクが急激に高まるため、把握できるとすごくありがたいが、年齢の質問が70代、80代以上となっており、75歳のという切れ目がない。

座長：現状で75歳が後期高齢者にあたるのかという疑問もあるが、年齢はもっと細かく聞いて75歳、85歳と区切る項目を増やしていただきたい。

委員（武蔵野市コミュニティ研究連絡会）：市民アンケートの最後のページでムーバスの外観デザインについて聴取しているが、路線バスの外観デザインについては聴取していない。これは武蔵野市としてのこだわりがあるから入れたのだと思うが、アンケートの質問としてはあまり意味がないような気がするがいかがか。それよりは、バスの乗りやすさのほうが大事ではないか。バスに乗った後もう一段上がるバスと、上がりずそのまま乗り込めるバスと2種類ある。都電荒川線に時々乗る機会があるが、荒川線はプラットフォームに緩やかな坂で上がっていく。そしてノンステップで電車に乗れる。電車内は9割方が高齢者で、私なんか席が空いても座れないと思うくらいご高齢の方が多い。要するにステップがないからご高齢の方が都電荒川線を利用されるのだと思う。そういう意味で聞くのであれば、路線バスにしてもムーバスにしてもどれだけバリアフリーになっているのかといったことを聞いたほうが良いのではないか。

座長：ムーバスのコンセプトの中に「武蔵野市らしいデザイン」というのがあったため含まれている質問かと思うが、当時と比べて車両自体の機能というのはすごく大事になってきている。そういった部分は市民アンケートではなく、ムーバス、路線バスそれぞれのアンケートで満足度をチェックしていきたいと思う。その他、市民アンケートに関していかがか。ではこちらの方は色々なご意見をいただいたので、事務局で修正の後、また展開して頂ければと思う。

■ムーバス利用者アンケートに関する協議

座長：次に「ムーバスの利用アンケート」こちらについてまたお気づきの点があればおきかせいただきたい。事務局からは最後のページの「運賃」の話があったがいかがか。

委員（武蔵野市コミュニティ研究連絡会）：運賃のお話で、この問いではなんとなく「武蔵野

市は値上げをしたいのか」と思われる。もしそうなのであれば最初の説明に先立って、「6000万円の補助金を市から支出している」と記述があるが、それに対して延べ何名が利用しているのかということも記載をした方がよいのではないだろうか。利用者数を記載することで、そこから一人あたりの金額等を考える方がいるかもしれない。

座長：波線内の最初の段落はムーバスが何故100円均一になったのかというコンセプトが記載されており、2段落目は「6000万円を市から支出」という現状、3段落目は比較的新しい課題という構成で成立されている。これを見ると2,3段落目を逆にし、「ムーバスのスタート、新たな課題、現在の運行状況」という伝え方をしたほうが良いと思う。その上で市民がどのように考えるかを聞くことになると思う。そのため、最初にどのような説明をするのが大事になると思うので、是非ご検討いただきたい。一般の方だと6000万円という金額のイメージが掴みにくいため、全体の経費の中のどの位置づけなのかという事や、あるいは利用者が減少しているわけではない、むしろ増えている路線の方が多いが、それでも経費が足りていないという事を伝える必要があると思う。特に最近武蔵野市に住まわれた方だと、利用者が減少しているのかとニュアンスを取り違える可能性があるが、そうではないので、新しい課題を解決していくためには更に経費がかかる可能性が高く、現在どうすべきか検討していると直球で伝えてしまったほうが、答えが返ってくるのではないか。その他皆様からいかがか。

委員（武蔵野市健康福祉部長）：同じ部分になるが、町内会費をいう表現がわかりやすいのかという点について。「利用者の皆様でムーバスを支える”会費”という考え方」で十分なのではないか。

座長：特にこだわりがなければ会費でよいかと思う。

事務局：路線バスと違い、バスの空白・不便地域に住む方々の駅までの移動手段を確保するという事で、町内会という意味の町内ではなく、運行している路線の町内の方が支えてくれないと維持できないという意味で作った言葉で、ムーバス開始からこの言葉を使っている。意味合いとしては「会費」で通じると思う。確かに最近武蔵野市に住まわれた方には誤解を招く可能性があるので、再考してみたいと思う。

座長：一般的には「会費」の方がわかりやすいと思う。問27の選択肢にも「会費」とあるので、統一したほうが良いと思う。問27で事務局から説明があった話だが、波線内の説明が住民の方に伝わっていれば、①を選択した人が多くても皆様の意向として受け止めなければいけないという事だと思うので、この設問はあったほうが良いと思う。その上で武蔵野の場合「自転車とムーバスの取り合い」ということが発生している為、価格の感度は敏感になら

ざるを得ない。問 28 をより多くの方に回答してもらおうという事であれば、先ほど補足されたように②を選択されなかった人にも問 28 を回答して頂くように変更をしたほうが適切かと思う。

委員（東京都建設局北多摩南部建設事務所管理課長）：武蔵野市民が何名か存じ上げないがムーバスの維持経費の 6000 万円は、一部エリアの町内会費を賄うための税として、利用されていない方も負担されているという事がただ今のお話で分かってきた。そうすると運賃 100 円が高いか安いかをムーバスに乗っている一定のエリアの方からアンケートを取れば、当然会費を上げずに全体の負担の方がいいという回答になるのではないか。料金について、利用している方だけの意見になってしまいそうで、最終的に料金を決める際はどうなのかと思う。

座長：つまりこの設問を前段の市民アンケートに載せたほうが適切という事だが、事務局としてはいかがか。

事務局：路線バスが運行している地域の方たちは路線バスを 220 円で利用して駅に出ているが、ムーバスのある地域の方は 100 円運賃で同じように駅に出ているという状況で、市民アンケートで聞けば「路線バスと同じ料金にするべきではないか」という意見が出るのは当然のことだと思う。しかし、ムーバスはそういった目的で始めたものではなく、路線バスが通っていないため街にでられないという方のための移動手段として運行しているため、基本的に路線バスと重複しないことを前提にしている。一般の市民の方にムーバスの料金について質問をするとどういう答えが返ってくるかわからない。

委員（一社 東京ハイヤー・タクシー協会）：ムーバスのスタートの時を知らない方、あるいは覚えてない方が多いのではないか。そのため、前段にそのシナリオを説明する内容を入れればいいのではないか。つまり、路線バスとムーバスの成り立ちが違う旨を伝えた上で質問をするようにしたらどうか。

委員（武蔵野市コミュニティ研究連絡会）：やはり気をつけなければいけないのは会費、町内会費的な言い方をしてしまうと、駅前に人が移動してきているのなら、駅前の商店から徴収すればいいのではという議論が出てしまったりしかねないので、気を付けなければいけないと思う。ムーバス 1 号路線ができたのが吉祥寺東循環で、その地区の問題点は南北に通る道はあるが、東西方向にバスが移動できる道が少ない。それ以外の道を通るバスを走らせる事で、今までトランスポーターションブアだった人が助かるようになったという経緯もある為、その辺りに触れた説明がないと、最初申し上げた通り趣旨からそれた意見が出てきてしまうのではという気がする。

座長：仮に広く市民の皆様にご質問という事であれば、なぜムーバスが始まったのか、100 円が

どうして成り立っていたのかという事だけでなく、トランスポーターシップな方や地域をフォローするものだったというところも説明が必要になってくる。そうでなければ回答が変わってきてしまう。もうひとつ、どういった対象にこの運賃の調査を行うかという事について、運賃の変更を検討していなければこの設問は必要ないため、この質問の回答を材料にして運賃の再検討をしているという事を広く市民の方が知ることになる。それに対して、何故こういった質問をしたのかと説明ができ、オーソライズできているのだということであれば、広く市民の皆様にも問うていくという事も合理性があると思う。ただそこまでのオーソライズはないが、何か考えていくための材料が欲しいというレベルなのであれば、まずは利用者の方の感度を知るという事が有効かもしれない。行政としてどのくらいの熟度でこの最後の項目をお聞きになろうとしているかという事によっても変わってくると思うが、その辺りはどういう感触なのか。

事務局：ムーバスは現在7路線9ルート運行しており、市内の交通空白・不便地域は基本的に解消していると認識しているので、こちらを維持継続することを前提として考えていきたい。ではそのためにはどうしたらいいのか。一番手っ取り早い方法は運賃を上げて利用者が減らなければ収支が改善されるという事になっていくのだと思う。しかし、料金を改定することによって、お客様が減り、また新たな運行補助金が必要になるという事も想定していかなければならない中で、ただ単純に値上げするという事だけを前提にすべきではないと考えている。収支改善のためにどうしたらよいかという事を事務局としての視野を持って述べるが、実際ムーバスを利用される方に、運行に必要な費用、会費がなければ運行の維持継続ができないため、受益者負担という考え方も出てくるのではないかという部分を問うてみたいという本音はある。事務局として収支改善につながる色々な策を検討する中で、なんとか100円料金というものを維持継続することができないかということを中心に考えていくが、ただ例えば乗務員不足などが深刻化していく中で運行本数を減らさなければいけないという可能性も出てくるわけであって、その辺りを踏まえて料金体系をどうするのかについて、まだ具体的な策は見いだせていない。

座長：それならば、赤字をどのようにして減らしていくのかというより、乗務員不足になってくると少なくとも運行事業者に支払う金額を増やしていかなければ解決につながらない等、今後コストがだんだん上がっていく中で、利用者の方にご負担いただく部分と武蔵野市として負担をしていく部分の配分をどうしていくのかを考えなければいけなくなってきたというニュアンスだと思う。その配分を考えていく時に、運賃が100円でなければ利用者が減ってしまう、トランスポーターシップの問題が拡大してしまうという事であれば、武蔵野

市の負担を一律に増やしていかなければいけない。しかし 120 円程度であれば利用者は減らないという事であれば、配分を変える余地があるかもしれない。その辺りの見極めが現在の段階である。そう考えると広く市民の皆さん、利用してない方にも問うというよりは、現在の利用者の方がどう変化していくのかという事に特化して聴取を行ったほうがより良い情報が得られるのではと思う。逆に言うとどういう課題を抱えているというシナリオが多少長くなるのはやむを得ない。それよりもしっかり書かれているかどうかということが鍵を握るので、是非フォローいただければと思う。

委員（東京都建設局北多摩南部建設事務所管理課長）：先ほど 2, 3 段落目の入れ替えのお話があったが、ムーバスの赤字について利用者が減少しているからではなく、利用者は増えているが現在 6000 万の赤字で、さらに 3 段落目の「また」以降の運転者不足～と続くと、これからさらに財政負担が大きくなるのかと危惧される。今回のアンケートでは 100 円運賃をどう思うのか、シナリオをきちんと説明したうえで素直に質問を行って、最終的に市議会や行政が判断されると思うが、構造的に利用者が増えても赤字が増えるというのは行政、財政的に心配があると感じた。

委員（一社 東京ハイヤー・タクシー協会）：6000 万円をまちづくりに利用してもよいと市民から声が上がれば、それは高くない。例えばムーバスが運行されていると医療費が減っているとか、あるいは障害のある人たちが街に出て活性化に繋がっているというのが具体的に見えていけば、6000 万円がまちづくりに絶対必要な金額である、あるいはそれ以上かかってもそれが街の活性化に必要で税収も上がっていると議会で証明されれば問題になることではない。6000 万円という数字だけが取り上げられるため疑問が上がるわけで、そこは交通対策課の問題ではないかもしれないが、もっときちんと説明をしたほうがいいのかと思う。逆に言えば今回はアンケートから外してしまって、別の機会で聴取するのもひとつの手段だと思う。おそらくその内容だけで 2~3 ページのアンケートになってしまいそう。あまり意見を壊したくないが、ムーバスのお金を聞くにしても、もっとシンプルにしたほうが良いとも思う。このページだけでも他のページと比べてバランスが悪いように見える。

座長：6000 万円を減らすことを目標とすべきではないと思っている。これから経費が上がっていくということに対して利用者と行政の負担をどう配分していくかを考えることが重要である。実際にムーバスが走ることによってトランスポーターンプアが少なくなっている。ではそのエビデンスをそれ以前の問 26 までの設問でとらえられるかどうかという点が重要だと思う。現状は今どういう利用がされているかという移動実態の把握にすぎない為、ムーバスによりトランスポーターンプアが減ったというエビデンスがうまく取れていない。

そのため後半の間 27、問 28 の前にある説明とその前段が余計アンバランスに見えている。クロスセクターベネフィットという形で調査をした前例というのは全国的に多くはない。近畿運輸局でそういったマニュアルのようなものを作ったケースがあるため、そういったものも参考にしながら前段のアレンジをちゃんと行ったほうが良いかと思う。こちらのアンケートの実施は5月～6月くらいを予定していると思うが、もう1ヶ月くらい期間を設けて前段を練る時間を作ったほうが良いのではないか。前段はクロスセクターベネフィットが把握できるようなものにしたいと思うので、一度調査票を預からせていただければと思う。

■路線バス利用者アンケートに関する協議

座長：ではもう一つは路線バス利用者アンケートという事で、こちらは駅でバス待ちをされている方に配るという調査か。

事務局：はい。

座長：こちらに関してお気づきの点があればご意見をいただきたい。

委員（代理・関東バス株式会社 取締役運輸部長）：路線バス利用者アンケートで一番重要となる要素だと思うが、「どのバスを使ったか」というバス事業者の名前がないのでそちらは聴取したほうが良いかと思う。その上で乗車バス停や降車バス停を入れたほうが良いかと思う。

座長：こちらは今日利用された路線バスの行き帰りで2回分記入ができるようになっているが、その次の行き帰りの乗降時間については、それほど長くは乗車していないと思われるので一方だけでいいかと思う。その分スペースが空くので、「どの事業者か」答えていただけるようにするといいかと思う。それと行きは使ったが帰りは使っていないという事がわかるようにしておく、単に空欄なのか、使っていないから空欄なのかと区別でき、データの質が高くなる。

委員（武蔵野市コミュニティ研究連絡会）：運行本数を聞いている質問があるが、これは総運行本数を聞いているのか。利用者の立場であれば一時間あたり何本だったらという発想になると思う。もっと具体的に変更をしたほうが良いと思う。先ほどの2つのアンケートについても「運行本数」という言葉を用いていたので合わせて検討した方が良い。

座長：利用している時間帯によっても感度が変わってくる。こういった調査を行うと60分に1本の路線などでは満足度は30分に1本が求められ、30分に1本の場合は15分に1本とおおよそ今の倍が求められるので、あまり得策ではないかもしれない。そうすると運行本数の聞き方も、「1時間当たりの運行本数」とするのも一つの手段だと思う。もう一つはそれぞれの項目についてとあるが、どの路線についてか分かったほうが良いので、本日利用になった路線に絞り、その上で「1時間当たりの」と聞けば理解しやすいので、その方が良い。あ

わせて設問6も「今ご乗車の路線」としたほうが良いと思う。もしかしたら行き帰りで違う路線を使っているという方もいらっしゃるかもしれないが、そういう方は珍しいと思うので、「今日ご利用された路線」と修正した方がよい。

委員（代理・関東バス株式会社 取締役運輸部長）：利用頻度を教えてくださいというのも「今回利用された～」としたほうがバスを毎日乗るのか、電車に乗るのかというのが明確になると思う。それと自転車の質問があるが、「今日がはじめて」という項目はなくてもいいのではないか。

座長：利用頻度も「本日も利用の～」として頂けると質問6となっている3段階評価ともリンクさせることができる。自転車の質問の項目については不要である。その他まだ提言しきれていない部分もあるかと思うが、もし意見があるとしたら期日などあるか。

事務局：一週間程度、来週の火曜日ごろ（5/14）までをお願いしたい。

座長：ではムーバスのアンケートについては前段の聞き方に変更が必要になるかと思うので、こちらは少し時間をかけて進めるという事になるかと思う。全体の調査という事でタクシーの議論はできていないが、ここからまた千田委員とも内容を詰めさせ頂きながら実施できればと思う。全体含めてお気づきの点があればお受けしたいと思うがいかがか。

（なし）

座長：では本日からたくさんのご意見をいただいたので、良い調査票ができるかと思う。また事務局の方で精査し皆様に展開いただければと思う。

（2）その他

■武蔵野市地域公共交通活性化協議会規約の変更について

【資料5、6】

- ・資料5、6に基づき説明

■ムーバスの利用状況（速報）について説明

以上